

(様式1)

令和4年度 学校運営協議会自己評価表

浜松市立(浜北北部中学校) 学校運営協議会長

<評価項目1> 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

- 年度途中の細かな方向性や、運営上、留意していくべき点については会の中で日々の学校の様子を伝え聞きながら意見を出し合い、協議する機会となった。本会議で出し合ったことが、今後の学校運営の基本方針に活かされていくことを願う。
- ここ数年のコロナ禍での生活によって、子ども達や家庭だけでなく、学校(先生)側も学校生活や人との関わりに悩みながら取り組んでいると感じた。
- 基本方針を常に意識して活動できることが理想であるが、とかく、目の前のことにとらわれてしまっていることが多いのではないかと。「着眼大局着手小局」という言葉もあるが、今やっていることが、基本方針と繋がっていることを、できる限り繋げて考える努力をすることが大切。今後も他の委員の方と共有していきたい。
- 今年度スタートしたばかりのため、理解したつもりであったり、感心させられたりしたが「熟議」とまではいかず、その方針を会の中で共有するにとどまった。学校全体を通して方向性を熟議するには、まだまだ関わり(勉強)不足と感じた。

<評価項目2> 学校運営に資する活動について熟議を進めることができたか。

- 年度始めに思い描いた段階とは違い、いくつかの学校支援ボランティア活動が実現され、情報発信をはじめ、大きく進捗があった。これも、委員が主体的に受け止めた成果である。
- 参観の機会もあり、熟議を進める上では生徒の様子をうかがうことができ良かったが、「働き方改革」の観点から、今後は教職員が負担にならないように、且つ、持続可能な活動のあり方について熟議していきたい。
- 昨今の情報社会では関わりを持つということを拒絶する地域社会になりつつあり、学校に対して地域の方々が協力する人が少なくなっていると感じる。関わっていただけるボランティアの方々を一人でも増やし、お互いに有意義な時間が過ごせる活動ができればと思う。
- 挨拶が停滞気味だという指摘もあり、運営協議会として検討課題の一つとして取り上げるべきではないか。
- 先生方の働き方改革もよく分かるが、生徒の向上に連動する働き方改革に繋がっていただけるとベストである。

<評価項目3> 今年度の取組の評価を踏まえた来年度の目標(取組の重点)

- コロナ禍が長期化しており、地域社会運営にも縮小化、弱体化している状況を多分に感じる。元気が足りなくなった地域ではあるが、子供たちの支援活動はおろそかにしてはいけない。学校地域の連携においては引き続き、課題としていきたい。
- 今年度は初年度ということもあり、現状把握という感じだった。まだまだ与えられた協議委員という役割が出来ているか不安だが、少しでも学校と地域の繋がりに関わることをできるよう、努めたい。
- 学校関係者評価にて評価が低い項目について、運営協議会として熟議が必要と判断される項目については、学校へ足を運ぶ回数を増やす等、前向きに取り組んでいきたい。また、可能であれば運営協議会に出席可能な先生方とも共有しながら進めていきたい。
- 学校と地域の代表である委員の風通しについては、風穴が開き、意見の交流もできた。委員にとどまらず委員から地域全体、地域の人たちに広げていくには、委員として何ができたのか、できるのかをもっと考えなくてはならなかったように反省する。
- 地域を巻き込んだ子育て(教育)にするためには、学校で取り組んでいるポジティブな姿だけでなく、難しさやこぼれ落ちている面についても開示し、地域にSOSを発していく勇気も必要かも知れない。